

令和7年10月23日（木曜日）

豊後大野市立朝地中学校 宮部 葵先生の授業です。

授業の単元は、第3学年「相似な図形」。ピラミッドの高さといった直接測ることができないものについて縮図を活用して求める場面です。

導入では、バーチャル地球儀アプリを活用し、実際にピラミッドの様子を確認させ、およその高さを予想させるなどし、生徒の主体性を促す工夫がなされていました。地面にまっすぐ立てた棒と棒の影やピラミッドとピラミッドの影に着目した際にできる相似な二つの三角形をもとにすれば求めることができるのではないかと気付いた生徒は、相似な図形の性質である「相似な図形では、対応する線分の長さの比はすべて等しい」ことをもとに問題を解決することができました。

また、グループワークで互いの考えを説明し合う際、説明を聞いていた生徒から「なるほど！」や「確かに！」といった言葉が聞かれるなど、互いの考えを認め合うことができる学習集団が形成されていると感じました。事後研で確認したところ、小中一貫教育校の朝地小中学校では、9年間通して、自他のよさを認め、協働する子どもの育成に取り組み、児童生徒に返事や反応を大切にしよう指導しているとのことで、その成果が授業の中で表れていました。

事後研では、生徒に「なぜ？」といった疑問を感じさせるような導入の在り方、また、生徒の考えの理由を問うとともに、生徒の不十分な説明はできる限り生徒に補わせ、授業を展開することの大切さ等について確認しました。

ぜひ、今後も教材研究に意欲的に取り組み、日常生活や社会の事象を扱うなど、数学的活動を通して、生徒の資質・能力の育成を図ってほしいと思います。

